

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 8月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人恵愛会
事業所名	グループホームこのゆびと一まれ
所在地	鹿児島県南九州市知覧町永里4577-2 (電話) 0993-83-1015
自己評価作成日	令和4年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の下、ゆったりとした時間の中でそれぞれの利用者が思い思いの時間を過ごせるように支援している。
 ・協力医療機関との連絡体制が整っており、些細な変化や初期症状を見逃さずに早い段階での報告や相談ができています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成4年8月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、南九州市知覧支所から4km程離れた自然豊かな永里地区の広い敷地の一角に、特別養護老人ホームや在宅福祉サービス事業所に隣接して平成19年に開設されている。幹線道路から少し入った山林や畑地に囲まれ、近くには県農業開発センターや電器会社、個人住宅等が点在しており、園庭の菜園には季節の野菜や草花が植えられて、利用者は日常的に四季を感じながら平穏に暮らしている。

地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、地域の文化祭に作品を出展したり知覧二日市の見学、隣接の事業所の利用者との交流、散歩や買い物等の外出時の会話、ボランティアや実習生の受け入れ、野菜を頂くなど、円滑に交流する関係を築いてきているが、コロナ禍により現在は地域のイベントの殆どが中止され、外出を伴う交流を自粛している。有償ボランティア、訪問美容の受け入れは継続し、住民から寄せられる認知症ケアに関する相談や施設見学等には専門性を活かして助言に努めている。

管理者及び職員は、ケアの根幹である理念に「あなたが笑って暮らせるように私たちが寄り添っていきます」を掲げ玄関やホールに掲示し、計画的な研修の実施やミーティング時の振り返り、意見交換等で意義を共有して、利用者がその人らしく生きがいのある日々が暮らせる支援に取り組んでいる。コロナ禍が長期間続いているため外出や面会等に制限があるものの、利用者の意向に沿って園庭での散歩や墓参、一時帰宅の外出や趣味、特技、家事等の取り組みを職員全員で工夫しながら個別に支援し、笑顔や楽しみのある生活となるよう努めている。利用者及び家族からの意見や要望を、ケアの中や面会、電話等での汲み取りに努め、ミーティング等で協議して改善を図っており、本調査に係る家族アンケートからも家族との深い信頼関係が築かれている状況が窺える。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼と協力関係を築いており、日頃の業務の中やミーティング、申し送り時に積極的に意見や要望を出し合い、検討してより良いサービスに取り組んでいる。計画的な研修の実施やケアへの助言指導に努め、勤務シフトには職員の家庭や個人的事情にも十分配慮しており、法人による給与体系や外部研修受講時の経費の助成制度等が整備されて、職員のモチベーションに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を覚え、その意味を理解しており、実践に取り組んでいる。	10年程前に見直した理念に、利用者が笑って暮らせるように寄り添う支援を掲げ、玄関やホールに掲示し計画的な研修の実施や日頃の業務の中やミーティング時に振り返りや意義の確認、意見交換等を行って理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	感染予防のため、ほとんどの行事が中止となっており、地域との交流ができていない。有償ボランティアの受け入れは継続している。	コロナ禍により、いろいろな制限はあるが、家族、友人との面会、週1回の有償ボランティア（シーツ交換、衣類の繕い等）、訪問美容等を受け入れ、野菜を頂く等可能な限りの交流を継続している。利用者の意向に沿って一時帰宅や墓参、通院等は個別に支援しているが、買い物、弁当持参の遠足、ホームの行事等に家族や地域の人の参加は自粛している。住民から寄せられる認知症ケア等の相談や施設見学には専門性を生かして助言に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	6月から7月にかけて計4名の実習生を受け入れた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防のため、書面での開催となっている。家族、地域住民代表、保険者へ書面を郵送し、意見等を求めている。	会議は、民生委員、住民代表、家族等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮し、また、市の指導により現在は書面会議に変更している。利用者の状況やホームの行事、身体拘束適正化検討委員会等の報告を資料にして委員、家族に送付し、意見や要望等を貰うように取り組んでいる。職員は寄せられた意見等をミーティング等で検討して運営やケアの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料にて現状を報告している。介護保険等の不明点や質問をし、回答を得ている。	市担当者とは、介護保険の更新や各種制度の申請、報告、感染症予防に関連する協議等を行い、指導や助言、提案をもらうなど日頃から協力関係を築いており、運営推進会議の資料でもホームの状況の理解を得ている。糖尿病患者のインシュリン注射対応の相談を行い、市から医療行為である旨の回答を得て退所に至った事例など、具体的な相談も行って適切な運営やケアに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3カ月に1度、身体拘束に関する研修を年2回開催し、身体拘束や不適切ケアの廃止と適正化に取り組んでいる。	身体拘束や高齢者虐待の防止については運営規定や重要事項等に明記し、計画的な研修の実施で認識を共有している。適正化を図る指針を整備し身体拘束適正化検討委員会も年4回開催すると共に、ミーティング等で事例による意見交換や日頃のケアの振り返りに務めて拘束の無いケアに取り組んでいる。スピーチロックを含む不適切なケアには、その都度、注意や助言を行うなど、日頃から気付きに努め改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4月に虐待についての職場内研修をし、理解を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活自立支援制度と成年後見制度を利用されている方がいた。権利擁護についての職場内研修を計画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかり易い言葉で説明し、理解していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に意見や要望をいただくことが多く、内容を職員で共有し、運営に反映させるように取り組んでいる。	利用者や家族には、日頃から気軽に意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会（現在は窓ガラス越しで実施）や電話、手紙等で利用者の状況を伝えながら意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望をミーティング等で検討して利用者主体のケアの改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングで職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるか検討している。必要であれば法人の運営会議で代表者へ報告している。	管理者と職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係を築いている。日頃の業務の中やミーティング時に意見や要望等を出し合い、必要に応じて個人面談も行って、業務やサービスの向上を図っており、食材を配達方式に変更し買い出しに要していた時間を利用者のケアに取り組むなどの改善例が見られている。日頃からケアに対する助言・指導や研修の実施等に取り組み、勤務シフトには有給休暇の取得や健康状態、個人的事情も配慮する等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人はキャリアパスを整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は資格取得を促し、職場外研修への参加を勤務として認め、法人が受講料やテキスト代を負担している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県認知症グループホーム連絡協議会の会員になっており、研修会や情報交換等ネットワークができサービスの質の向上に繋がっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が入所前に新規入所者はどのような人か、どのようなことに困っているのかなど把握しておくことで、安心してホームでの生活が開始できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前説明の機会を設け、ホームの見学や要望等の聞き取り等をして信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、ケアマネから得た情報を基に入所直後から必要な支援をケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の能力に応じて、洗濯物たたみや食器洗い、盆拭き等を一緒に手伝ってもらい、役割を持つことで自信や存在意義に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防のため外出は控えていただいているが、電話やガラス越しでの面会、病院受診の付き添いを依頼し、本人と家族の関係が希薄にならないように協力を得られている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気分転換を兼ねて、自宅や納骨堂への個別外出を支援している。	利用者毎の馴染みの情報を把握し、通常は近辺の散歩や買い物、一時帰宅、通院、墓参等を家族の協力も得ながら支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して外食、外泊、買い物等は控えている。面会はガラス越しで実施し、コロナの感染状況に配慮しながら、園庭の散歩や近くの神社への初詣で、一時帰宅や墓参等を個別に支援している。家族とは面会や電話、手紙の取り次ぎ等で関係の継続に努めており、携帯電話を所有している利用者は毎日家族との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに精神的にも身体的にも助け合っている場面を多々見かける。一方で、波長の合わない人や認知症の進行具合が異なる人は些細なことでトラブルになるので、仲裁に入ったりトラブルを未然に防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	安心して次のサービスを開始できるよう、ケアマネや相談員に情報提供し連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者自身の言動から得たものや表情・仕草などから推察し、日々本人の思いや意向を汲み取るように努めている。	高齢・重度化により発語困難の利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族にも確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるように取り組んでいる。利用者の意向に沿って新聞や読書、テレビ、ビデオ視聴、ぬり絵、家事（食材の下処理、テーブル拭き、洗濯物たたみ等）の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、達成感を得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聞き取りに努めるが、記憶が曖昧で困難な状況が多い。入所前の生活についても認定調査資料等での把握にとどまっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で本人の状態や出来ることを見極め、個々の能力が生かせるような支援に繋げるように心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスと3か月毎のモニタリングを実施し職員内で情報共有と出された意見等をプランに反映するようにしている。家族の意見、希望は現状下では難しい。	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示やケアカンファレンス及びモニタリング時の職員の意見等を基に、習慣や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。定期的なプランの見直しに加え、利用者の状態の変化時には計画を実態に沿って修正して改善に取り組んでおり、プランの内容は家族にも説明して理解を得ている。ケアの実施状況は利用者ごとの記録や業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>本人の言動や表情などを客観的に記録し、職員間で情報共有を図るとともに、そこで気付いたことや新しいアイデアなども実践してフィードバックすることでプランの見直しに活用するように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>介護保険外でのサービスは金銭的な負担や人的負担、様々な制約があり、導入は難しい。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護保険外でのサービスは金銭的な負担や人的負担、様々な制約があり、導入は難しい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族が受診に同行する際は必要に応じて情報提供書を準備している。受診が困難になった場合は協力医療機関の訪問診療を紹介し適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、主治医による定期的な訪問診療（月2回）や通院が実施され、他科受診は家族が主体的に同行している。皮膚科、精神科も訪問診療で受療している。月2回、訪問看護もあり利用者の健康、衛生管理に努め、家族との連携も密に図っており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の訪問看護の際に状態の変化や本人の訴えを相談することで、医療機関への受診に繋げることができている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはホームでの生活の様子を情報提供書で報告している。退院後にホームでの生活が可能ないようにADLの回復やリハビリを依頼したり、定期的に治療状況等の確認をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に重度化に関する指針に沿って事業所の対応について説明し、同意を得ている。ADLの低下や医療の重度化が目立ってきた場合は特養入所についての相談や検討をしてもらい、特養とも情報を共有している。</p>	<p>重度化や看取りの対応指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して同意も得ている。入所後は病状の報告を随時行い、重度化した時点でその後の対応を主治医や家族との話し合いを行って可能な限り家族の想いに沿ったケアに取り組んでいるが、看護師の在籍が無いこともあり、利用者が最終段階で特養入所か医療機関への入院に至っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の初動対応をキッチン見やすい所に掲示している。主治医への直通電話で指示を仰いだり、判断に迷ったら救急要請をするなど、初動対応が身に付いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>大雨・土砂災害、火災、地震に対する避難訓練を定期的実施しているが、自事業所と特養の職員数名での実施であり、地域との協力体制は築けていない。</p>	<p>夜間発生も想定した火災や、豪雨、地震災害を想定した災害訓練を年2回（法人全体とホーム独自の訓練。2回共、消防署立ち合い）実施し、消火器や自動通報装置等の取扱いも研修している。日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、レトルト食品、米等の食料や飲料水をホーム及び法人本部で備蓄し、カセットコンロや懐中電灯、ラジオ等も備えている。地域住民宅とは少し距離があるため、同法人の事業者間での協力体制を構築しており、夜間の不審者侵入対応にセンサーも設置して。ホームのBCP（業務継続計画）は策定済みである</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束防止や虐待防止の研修で声掛けについて学んでいるが、感情的な言葉使いが聞こえてくることもある。	人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務については運営規定等に明記され、研修の実施や日頃の業務の中での振り返り、意見交換等で認識を共有している。理念に沿って、尊厳を大切にしながら利用者主体のケアに日々努めており、入室時にはノックや声掛けを励行し、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な言葉やトーンで取り組んでいる。利用者が自己決定しやすいような語りかけや選択肢の提示にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が上手くできない利用者に対しては生活歴や表情、仕草などから想いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者のペースを大切にしているが、時には職員側の都合を優先し、お願いすることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に整髪と洗面、入浴時に髭剃り、定期的に爪切りや耳掃除を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて食器洗いやお盆拭きをしてもらう。また、旬の山菜の下ごしらえをしてもらう。	利用者の好みや栄養バランス、季節感、盛り付、利用者の状態に応じた代替食や形態等を工夫し、菜園の野菜も収穫して調理している。お節や節句、敬老会、誕生日、土用のうなぎなどの行事食や、手作りのおやつ（ふかし芋、ケーキ等）、梅干しや切り干し大根、ラッキョウ漬け等を利用者と職員と一緒に作る等、食事が楽しみとなるように工夫しており、利用者も季節の食材の下処理等を楽しんでいる。現在、外食や家族との会食、弁当持参の外出等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と飲水量を毎食記録に残し把握している。また、個々の咀嚼と嚥下の状態に合わせた食事形態での提供をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態や力に応じて声掛けや磨き直し、義歯の管理をおこなっている。残歯や義歯の状態によっては歯科受診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心や自立支援に配慮してトイレ誘導やパッド交換を支援している。	利用者の身体の状態や習慣、排泄パターン等を把握し、プランに反映させて支援に取り組んでいる。昼間は利用者に応じた声掛け等でトイレでの排泄を支援して排泄機能の維持に努めており、夜間のポータブルトイレの利用者も1人である。利用者ごとに介護用品やケアの方法を工夫し、便秘の予防に乳製品、植物繊維の多い食品、水分量、運動等にも配慮し、主治医にも相談しながら対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々な排便状況を記録に残し把握している。下剤に頼らずに自然排便が促せるように乳製品や食物繊維を摂れる食事を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に一日おきに日中のみの入浴となっている。また、他の余暇活動中であっても中断して入浴へ誘導していることがある。	利用者の健康状態や意向を確認しながら隔日毎の入浴を、清拭への変更等も取り入れながら支援している。時間の変更や温度、好みのシャンプー等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し、利用者のペースでゆっくり楽しんで貰っている。個浴の為、職員とのコミュニケーションの場にもなっており、入浴後は保湿軟膏の塗布や水分補給を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心配事で眠れない時は一緒に過ごして話を聞いたり、痛みが気になって眠れない時は湿布を貼ったり塗り薬を塗布して安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方に変更があった場合等には申し送り職員全員が把握し、変更後に何か状態変化等が無いかが気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	わが家でしていたような、切り干し大根や梅干し、高菜の漬物を作ったり、プランターに水やりをしたり、草むしりをして楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため、家族との外出や外食をお断りしている。本人に外出の希望があれば自宅訪問やお墓参りの外出に職員が付き添っている。	コロナ禍で外出の計画も実施出来ないことが多いが、園庭での散歩を日常的に楽しみ、初詣やミカン狩り、季節の花見等を実施し、また、墓参り一時帰宅、通院等は利用者の意向に沿って個別の支援で取り組んでいる。ただし外泊、外食、弁当持参のドライブ等は控えている。外出の機会が減少している状況に配慮し、室内での軽い体操やゲーム、音楽・ビデオの視聴、季節に併せた作品作り等、工夫してリフレッシュに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、トラブル防止のため、制限している。園外行事の際は預かり金を持っていき買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族のことを心配されている時には「電話を掛けてみませんか?」「手紙を書いてみませんか?」と声を掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い空間のため、利用者間のトラブルが多い。また、コロナ渦においては感染予防のパーティションや換気もトラブルの原因となっている。季節感のある飾り付けをして楽しんでもらっている。	利用者が昼間の殆どを過ごすホールは、明るくテーブルセットやテレビ、空気清浄機等が動線や利便性に配慮して置かれ、廊下や浴室、トイレにはプレートによる表示や手すりの設置等で安全性を図っている。利用者が作成した季節感のある作品や活花等が飾られ、また、菜園には数種の野菜や草花が植えられて、日常の散歩時には気持ちを和ませている。厨房からは調理の音や臭いが伝わり、畳スペースも設けられて家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓等を徹底し手指消毒剤やパーティション等も設置され、不快に感じる臭いや騒音もなく、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所で職員とお話をしたり、和室でマッサージや読書をしてゆっくり過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、仏壇等を持ちこまれている。安全に移動ができるように、家具の配置やベッドの高さに気を付けている。	居室はフローリングの床に掃出し窓（障子）、ウッドデッキの構造で明るく、ベッド、エアコン、クローゼットが利用者の身体状況に配慮して設置されている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、家族写真、仏壇、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に本人のペースで落ち着いて生活できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場、トイレ、居室にはそれぞれプレートを掲げている。廊下やトイレ、浴室には手摺りが設置してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない